

スタートダッシュ

2023.4.17

年度は、4月に始まり3月で終わる。学校は、大型連休明けまでが、一つの山場である。いわゆるスタートダッシュである。この約1か月の期間で、いろいろなことが定まってくる。指導者からすると、学級経営、各教科の授業、部活動などが軌道に乗るかかどうかである。生徒からすると、新しい学級に自分の居場所はあるか、居心地はいいか。新しい教科の先生のやり方には慣れてきたか。部活動は充実しているか。そして、何より生活リズムができているか。

教員側からすると、各学年とも、新しいスタッフのもと、組織的に動くことができているか、チームとして機能しているか。これが重要である。何事も最初が肝心である。組織やチームとよく言われるが、その土台となるのは、コミュニケーションである。互いに話さなければわからない。以心伝心という言葉がある。わかってくれるだろう、わかっているだろうと願っていると、意外とうまくいかないものである。ましてや新しいスタッフとなると、なおさらコミュニケーションが必要である。

組織もチームも、要はみんなでやる、一人に任せっきりにしないということである。学校は、一人のスーパーマンに頼る時代ではない。組織力で勝負する時代である。もし、組織力が上がってくるとすれば、一人一人が成長しているということである。みんなでやることで、一人一人に力がつく。これは、教員も生徒も同じである。

スタートダッシュの1か月間で、生徒は、自分の学級を評価し、各教科の担当者に評価を下す。部活動の顧問もそうである。誰でも、人が代われれば期待をするものである。この1か月で期待がさらに膨らむか、失望に変わるかである。

したがって、教員にとってスタートダッシュが重要なのだが、その準備期間が短すぎる。春休みが短すぎるのである。もう少し、じっくりと充電したり、考えたりできると、スタートダッシュの質も変わってくる。こう考えると、一時期、議論された9月入学がよいとなる。だが、日本人は桜が好きである。桜、春、入学、このイメージを、なかなか拭い去ることができない。

では、どうするか。秋ぐらいからは、授業などの教育活動を進めながら、次年度のことも考えていくようになる。実践する、評価する、改善策を考える、このサイクルを年間を通してまわし続けるのである。改善策は、すぐにでもできること、次の学期からできること、次年度からできること、数年後を見通して考えることなどに分ける。

スタートダッシュはしながらも、すでに来年のことを考える。前進あるのみである。新学期が始まって、まだ10日ほどである。ここから、さらに加速できればと思う。